

1 アンケート実施概要

(1) 目的

第二次佐久市総合計画（平成29年3月策定）に基づく市の施策について、市民が感じる満足度や必要性等を市政に反映する。また、「快適健康都市」の実現に向け、市民が感じている住み心地・健康感・幸福感に関する意識を伺うことを目的とする。

(2) 調査対象

佐久市内に住所を有する16歳以上の男女3,000人
（住民基本台帳から無作為抽出し、郵送によりアンケート調査票を発送、回収）

(3) 調査期間

令和2年11月12日～12月4日

(4) 有効回答

1,721人（回答率57.4%）

(5) 注意事項

- ・回答率は回答者数より算出した。
- ・四捨五入の関係で回答率の合計が100%にならない、また、本文中の数値と表、各グラフの数値が合わない場合がある。
- ・過去の調査において、回答率の合計が100%とならない場合は、100%となるように「無回答」にて調整した。
- ・グラフにおける（n=●●）の●●は回答者数。設問の分岐等により、回答者数（n=1,721）とならない場合のみ、記載がある。また、過去の回答者数の記載は省略している。

2 回答者属性

◆性別（単位：人）

	男性	女性	無回答	合計
回答数	771	948	2	1,721

◆佐久市への在住年数（単位：人）

	1年未満	1～2年	3～5年	6～10年	11～20年	それ以上	無回答	合計
回答数	20	47	82	113	284	1,170	5	1,721

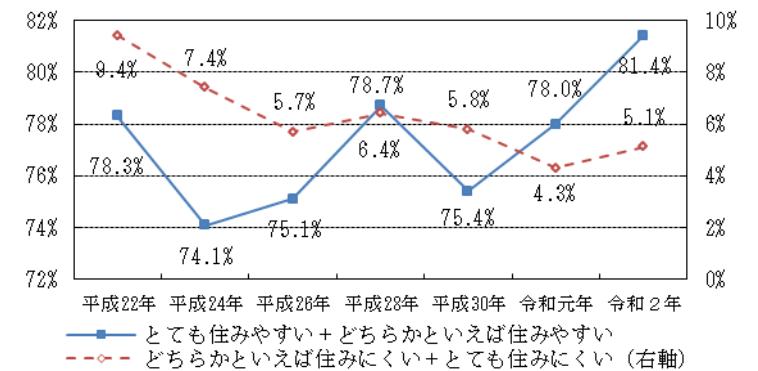
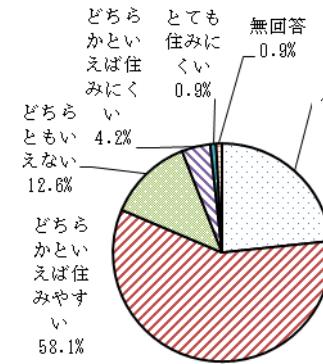
◆年代別×地区別（単位：人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	無回答	合計
浅間地区	15	35	72	88	91	54	36	55	34	0	480
野沢地区	17	20	20	52	51	35	27	30	28	0	280
中込地区	7	33	35	42	45	32	39	42	37	0	312
東地区	2	11	25	16	17	10	17	22	14	0	134
白田地区	7	16	22	32	30	29	33	30	29	0	228
浅科地区	1	8	14	18	15	18	15	8	23	0	120
望月地区	4	11	16	21	22	13	28	23	15	0	153
無回答	1	1	2	5	2	1	1	0	0	1	14
合計	54	135	206	274	273	192	196	210	180	1	1,721

3 住みやすさ

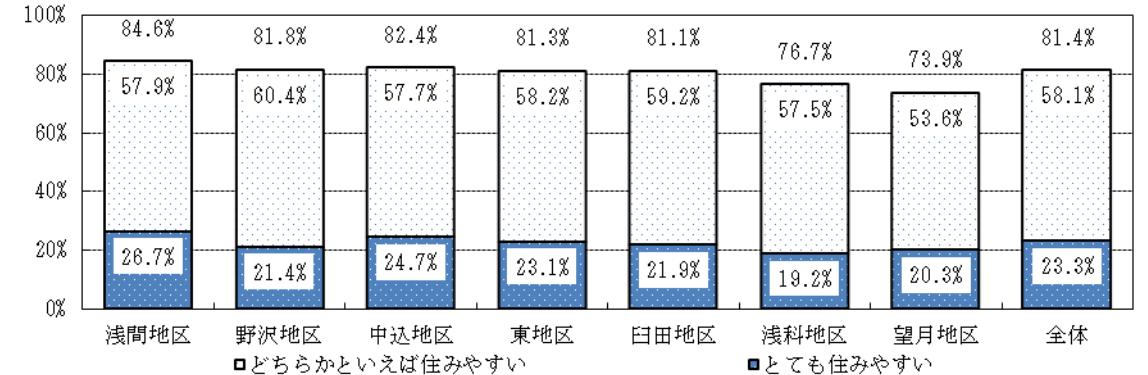
(1) 住みやすさ

「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると、81.4%となり、前回より3.4ポイント増加した。また、これまでの調査の中で最も高く、初めて80%を超えた。



(2) 地区別の住みやすさ比較

住みやすさは高い順に、「浅間」84.6%、「中込」82.4%、「野沢」81.8%となっている。一方、低い順では、「望月」73.9%、「浅科」76.7%、「白田」81.1%となる。佐久市の中心地から離れた地域において、住みやすさが低くなる傾向がある。



(3) 住みやすいと答えた人の評価が高い20施策、住みにくいと答えた人の評価が低い20施策

評価が高い施策は「医療」「消防・救急」「高速交通ネットワーク」といった佐久市の強みと考えられる項目が上げられた。一方、「就労・雇用」の不満の高さが他の施策に比べて目立つ。

施策	住みやすいと答えた人の評価が高い20施策		
	合計	満足	やや満足
医療	59.9%	16.7%	43.2%
消防・救急	52.8%	16.3%	36.5%
高速交通ネットワーク	52.4%	12.6%	39.8%
健康増進	52.1%	12.2%	39.9%
保健活動	50.7%	12.6%	38.0%
上水道	48.5%	16.1%	32.4%
下水道	48.4%	16.0%	32.4%
市街地	46.8%	9.4%	37.5%
幼児教育	46.0%	12.6%	33.5%
学校教育	45.2%	10.1%	35.1%
環境衛生	45.2%	10.1%	35.1%
防災	44.5%	9.3%	35.3%
交通安全	43.1%	9.9%	33.2%
生涯学習	40.0%	9.1%	30.9%
子育て支援・児童福祉	39.1%	9.0%	30.1%
スポーツ	39.0%	9.0%	30.0%
街並み緑化・公園・景観形成	38.6%	6.8%	31.8%
医療保険・国民年金	36.3%	10.0%	26.3%
介護・高齢者福祉	36.0%	8.1%	27.8%
高校教育・高等教育	35.3%	8.1%	27.2%

施策	住みにくいと答えた人の評価が低い20施策		
	合計	やや不満	不満
就労・雇用	59.1%	31.8%	27.3%
住宅	46.6%	30.7%	15.9%
地域交通ネットワーク	46.6%	26.1%	20.5%
土地利用	43.2%	26.1%	17.0%
市街地	42.0%	23.9%	18.2%
環境衛生	40.9%	20.5%	20.5%
商業・サービス業	38.6%	23.9%	14.8%
公共施設	37.5%	26.1%	11.4%
医療保険・国民年金	35.2%	18.2%	17.0%
ひとり親家庭支援・低所得者福祉	33.0%	15.9%	17.0%
保健活動	31.8%	21.6%	10.2%
交通安全	31.8%	19.3%	12.5%
工業	30.7%	20.5%	10.2%
介護・高齢者福祉	30.7%	13.6%	17.0%
林業	29.5%	19.3%	10.2%
少子化対策・母子保健	28.4%	15.9%	12.5%
地球温暖化対策	28.4%	15.9%	12.5%
学校教育	27.3%	13.6%	13.6%
高速交通ネットワーク	27.3%	17.0%	10.2%
観光	27.3%	15.9%	11.4%

注1：住みやすいと答えた人は「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」と答えた人
 注2：評価が高い施策は「満足」「やや満足」が高い施策
 注3：住みにくいと答えた人は「どちらかといえば住みにくい」と「とても住みにくい」と答えた人
 注4：評価が低い施策は「やや不満」「不満」が高い施策

4 施策別満足度・重要度の得点

(1) 得点の算出方法、象限について

得点は以下の方法で算出した。

①それぞれの回答数に、以下の点数を乗じ、その合計値を算出する。

満足：5点／やや満足：4点／どちらでもない：3点／やや不満：2点／不満：1点

重要：5点／やや重要：4点／どちらでもない：3点／あまり重要ではない：2点／重要ではない：1点

②その合計値を「無回答」を除く回答数で除する。

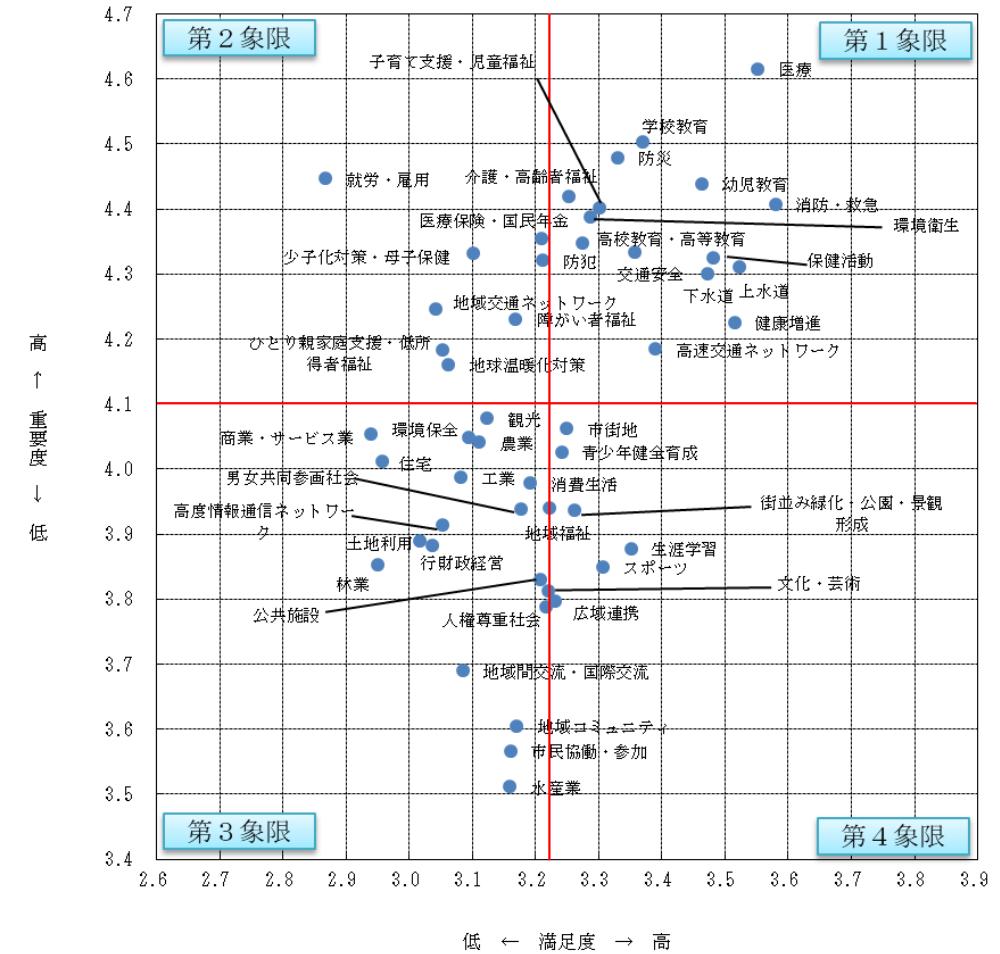
③施策分野は含まれる施策の得点の平均を得点とした。

グラフにおける第1～第4象限は、満足度と重要度の得点の平均値を境界とし、各象限に分けたものとする。

(2) 施策別満足度・重要度の得点

満足度・重要度がともに高い施策（第1象限）は「医療関連」「教育関連」や「高速交通ネットワーク」「健康増進」と佐久市の強みがあげられている。一方、満足度が低く、重要度が高い早急に対応が求められる施策（第2象限）は、「就労・雇用」、子育て関連の保健・福祉といった働き盛り世代向けの施策や「地域交通ネットワーク」となっている。今後、さらに満足度を上げるためには、働き盛り世代への施策の充実や公共交通の見直しが必要となる。

施策分野	施策	満足度	重要度	象限	満足度・重要度
教育・文化	幼児教育	3.46	4.44	第1	満足度高い・重要度高い
	学校教育	3.37	4.50	第1	満足度高い・重要度高い
	高校教育・高等教育	3.28	4.35	第1	満足度高い・重要度高い
	青少年健全育成	3.24	4.03	第4	満足度高い・重要度低い
	文化・芸術	3.21	3.83	第3	満足度低い・重要度低い
	生涯学習	3.35	3.88	第4	満足度高い・重要度低い
	スポーツ	3.31	3.85	第4	満足度高い・重要度低い
	人権尊重社会	3.22	3.79	第3	満足度低い・重要度低い
	男女共同参画社会	3.18	3.94	第3	満足度低い・重要度低い
都市基盤・土地利用	土地利用	3.02	3.89	第3	満足度低い・重要度低い
	市街地	3.25	4.06	第4	満足度高い・重要度低い
	公共施設	3.22	3.81	第4	満足度高い・重要度低い
	住宅	2.96	4.01	第3	満足度低い・重要度低い
	高速交通ネットワーク	3.39	4.18	第1	満足度高い・重要度高い
	地域交通ネットワーク	3.04	4.25	第2	満足度低い・重要度高い
経済・産業	農業	3.11	4.04	第3	満足度低い・重要度低い
	林業	2.95	3.85	第3	満足度低い・重要度低い
	水産業	3.16	3.51	第3	満足度低い・重要度低い
	商業・サービス業	2.94	4.05	第3	満足度低い・重要度低い
	観光	3.12	4.08	第3	満足度低い・重要度低い
	工業	3.08	3.99	第3	満足度低い・重要度低い
	就労・雇用	2.87	4.45	第2	満足度低い・重要度高い
保健・医療・福祉	健康増進	3.52	4.23	第1	満足度高い・重要度高い
	保健活動	3.48	4.32	第1	満足度高い・重要度高い
	医療	3.55	4.61	第1	満足度高い・重要度高い
	医療保険・国民年金	3.21	4.35	第2	満足度低い・重要度高い
	地域福祉	3.22	3.94	第4	満足度高い・重要度低い
	介護・高齢者福祉	3.25	4.42	第1	満足度高い・重要度高い
	障がい者福祉	3.17	4.23	第2	満足度低い・重要度高い
	ひとり親家庭支援・低所得者福祉	3.05	4.18	第2	満足度低い・重要度高い
	少子化対策・母子保健	3.10	4.33	第2	満足度低い・重要度高い
子育て支援・児童福祉	3.30	4.40	第1	満足度高い・重要度高い	
環境	環境保全	3.09	4.05	第3	満足度低い・重要度低い
	街並み緑化・公園・景観形成	3.26	3.94	第4	満足度高い・重要度低い
	地球温暖化対策	3.06	4.16	第2	満足度低い・重要度高い
	環境衛生	3.29	4.39	第1	満足度高い・重要度高い
	下水道	3.52	4.31	第1	満足度高い・重要度高い
	水道	3.47	4.30	第1	満足度高い・重要度高い
防災・安全	防災	3.33	4.48	第1	満足度高い・重要度高い
	消防・救急	3.58	4.41	第1	満足度高い・重要度高い
	交通安全	3.36	4.33	第1	満足度高い・重要度高い
	防犯	3.21	4.32	第2	満足度低い・重要度高い
	消費生活	3.19	3.98	第3	満足度低い・重要度低い
市民生活・交流・協働	市民協働・参加	3.16	3.57	第3	満足度低い・重要度低い
	地域コミュニティ	3.17	3.60	第3	満足度低い・重要度低い
	行財政経営	3.04	3.88	第3	満足度低い・重要度低い
	高度情報通信ネットワーク	3.05	3.91	第3	満足度低い・重要度低い
	地域間交流・国際交流	3.09	3.69	第3	満足度低い・重要度低い
	広域連携	3.23	3.80	第4	満足度高い・重要度低い
全体	3.22	4.10	—	—	



(3) 満足度・重要度の得点の上位・下位10施策

満足度が高い施策は「医療」「健康増進」「保健活動」といった医療・健康関連、「消防・救急」「上下水道」「交通安全」といった安全面、「幼児教育」「学校教育」といった教育関連である。重要度が高い施策は「医療」「介護・高齢者福祉」「子育て支援・児童福祉」「医療保険・国民年金」といった医療・福祉関連と「学校教育」「幼児教育」といった教育関連、「防災」「消防・救急」といった安全面である。

満足度：上位10項目

施策	満足度
消防・救急	3.58
医療	3.55
下水道	3.52
健康増進	3.52
保健活動	3.48
水道	3.47
幼児教育	3.46
高速交通ネットワーク	3.39
学校教育	3.37
交通安全	3.36

重要度：上位10項目

施策	重要度
医療	4.61
学校教育	4.50
防災	4.48
就労・雇用	4.45
幼児教育	4.44
介護・高齢者福祉	4.42
消防・救急	4.41
子育て支援・児童福祉	4.40
環境衛生	4.39
医療保険・国民年金	4.35

満足度：下位10項目

施策	満足度
地球温暖化対策	3.06
高度情報通信ネットワーク	3.05
ひとり親家庭支援・低所得者福祉	3.05
地域交通ネットワーク	3.04
行財政経営	3.04
土地利用	3.02
住宅	2.96
林業	2.95
商業・サービス業	2.94
就労・雇用	2.87

重要度：下位10項目

施策	重要度
林業	3.85
スポーツ	3.85
文化・芸術	3.83
公共施設	3.81
広域連携	3.80
人権尊重社会	3.79
地域間交流・国際交流	3.69
地域コミュニティ	3.60
市民協働・参加	3.57
水産業	3.51

5 満足度の得点

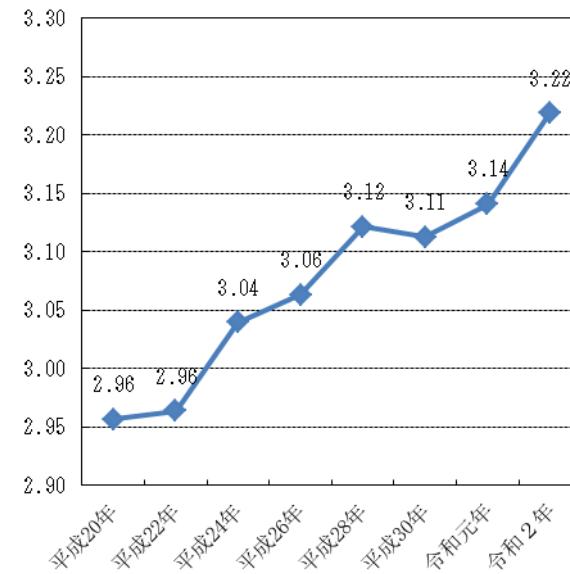
(1) 満足度の得点推移（全体、施策分野別、施策別）

施策分野別では、「防災・安全」が平成20年より継続して高い。また、近年では「教育・文化」の満足度も高い傾向にある。施策別では、「幼児・学校教育」「健康増進」「保健活動」「医療」や、「上下水道」「消防・救急」が高く、教育、安全、安心に暮らせる施策の満足度が高い。また、「高速交通ネットワーク」も高い。

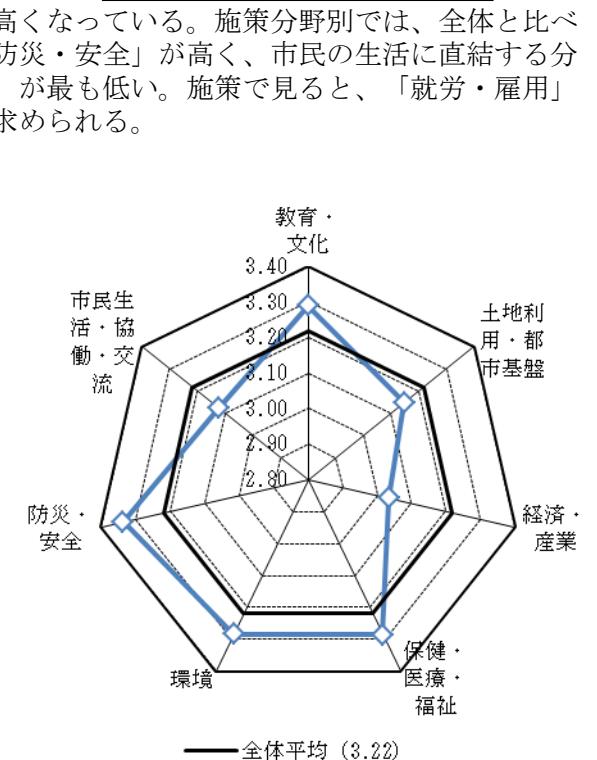
		令和2年	令和元年	平成30年	平成28年	平成26年	平成24年	平成22年	平成20年
全体		3.22	3.14	3.11	3.12	3.06	3.04	2.96	2.96
施策分野		令和2年	令和元年	平成30年	平成28年	平成26年	平成24年	平成22年	平成20年
教育・文化		3.29	3.22	3.18	3.16	3.08	3.07	3.00	3.05
土地利用・都市基盤		3.15	3.09	3.08	3.09	3.02	2.99	3.07	3.09
経済・産業		3.03	2.99	2.94	2.93	2.87	2.82	2.56	2.64
保健・医療・福祉		3.29	3.16	3.11	3.15	3.11	3.08	2.98	2.94
環境		3.28	3.23	3.20	3.26	3.18	3.20	3.10	3.07
防災・安全		3.33	3.23	3.23	3.23	3.17	3.16	3.19	3.07
市民生活・協働・交流		3.12	3.05	3.06	3.09	3.03	3.01	3.00	2.98
施策分野		令和2年	令和元年	平成30年	平成28年	平成26年	平成24年	平成22年	平成20年
教育・文化	幼児教育	3.46	3.32	3.32	3.21	3.04	3.13	2.79	2.82
	学校教育	3.37	3.24	3.27	3.16	3.14	3.02	2.79	2.82
	高校教育・高等教育	3.28	3.15	3.16	3.02	3.03	2.99	—	—
	青少年健全育成	3.24	3.18	3.13	3.15	3.06	3.04	2.97	2.98
	文化・芸術	3.21	3.21	3.13	3.12	2.93	2.99	3.02	3.10
	生涯学習	3.35	3.36	3.29	3.32	3.25	3.25	3.33	3.39
	スポーツ	3.31	3.25	3.13	3.17	3.15	3.02	3.04	3.11
	人権尊重社会	3.22	3.14	3.14	3.15	3.09	3.08	3.14	3.10
	男女共同参画社会	3.18	3.12	3.07	3.10	3.03	3.10	2.93	—
土地利用・都市基盤	土地利用	3.02	2.95	2.93	2.99	2.87	2.82	—	—
	市街地	3.25	3.17	3.10	2.99	2.94	2.80	2.91	2.96
	公共施設	3.22	3.16	3.01	3.09	3.02	2.93	—	—
	住宅	2.96	2.94	2.89	3.01	2.88	2.88	2.91	2.96
	高速交通ネットワーク	3.39	3.35	3.47	3.46	3.40	3.45	3.75	3.68
	地域交通ネットワーク	3.04	2.95	3.05	2.97	3.03	3.06	2.72	2.74
経済・産業	農業	3.11	3.06	3.00	3.01	2.92	2.93	2.44	2.41
	林業	2.95	2.92	2.86	2.85	2.88	2.84	2.57	2.80
	水産業	3.16	3.14	3.08	3.08	3.08	3.01	3.19	2.80
	商業・サービス業	2.94	2.87	2.84	2.87	2.85	2.86	2.50	2.55
	観光	3.12	3.10	3.03	3.03	2.89	2.85	2.65	2.90
	工業	3.08	3.02	3.00	2.98	2.86	2.82	2.56	2.75
就労・雇用	2.87	2.84	2.80	2.67	2.64	2.46	2.03	2.26	
保健・医療・福祉	健康増進	3.52	3.33	3.29	3.32	3.31	3.25	3.25	3.21
	保健活動	3.48	3.32	3.28	3.19	3.30	3.23	—	—
	医療	3.55	3.34	3.37	3.33	3.23	3.11	2.93	2.75
	医療保険・国民年金	3.21	2.97	2.92	3.07	3.01	2.82	2.91	2.74
	地域福祉	3.22	3.14	3.09	3.10	3.00	3.07	3.03	2.96
	介護・高齢者福祉	3.25	3.09	3.08	3.09	2.97	3.00	2.79	2.83
	障がい者福祉	3.17	3.10	3.01	3.06	3.01	2.99	2.84	2.85
	ひとり親家庭支援・低所得者福祉	3.05	2.95	2.92	2.92	2.91	2.94	2.75	2.75
	少子化対策・母子保健	3.10	3.10	3.01	3.22	3.24	3.14	—	—
子育て支援・児童福祉	3.30	3.27	3.16	3.20	3.13	3.20	3.30	3.39	
環境	環境保全	3.09	3.11	3.06	3.05	3.04	3.07	2.90	2.71
	街並み緑化・公園・景観形成	3.26	3.24	3.12	3.17	3.10	2.93	2.84	2.85
	地球温暖化対策	3.06	3.01	2.98	—	—	—	—	—
	環境衛生	3.29	3.22	3.18	3.18	3.08	3.16	2.82	2.81
	上下水道	3.52	3.45	3.45	3.47	3.38	3.45	3.59	3.50
下水道	3.47	3.36	3.38	3.42	3.31	3.37	3.37	3.50	
防災・安全	防災	3.33	3.24	3.25	3.26	3.25	3.13	3.46	3.25
	消防・救急	3.58	3.51	3.58	3.52	3.39	3.40	3.46	3.25
	交通安全	3.36	3.21	3.16	3.16	3.07	3.16	3.18	3.15
	防犯	3.21	3.16	3.13	3.10	3.05	3.07	2.93	2.86
	消費生活	3.19	3.05	3.04	3.10	3.09	3.04	2.94	2.84
市民生活・協働・交流	市民協働・参加	3.16	3.07	3.10	3.10	3.15	3.10	3.16	3.12
	地域コミュニティ	3.17	3.09	3.08	3.08	3.05	3.05	—	—
	行財政経営	3.04	2.86	2.92	2.92	2.87	2.84	2.64	2.57
	高度情報通信ネットワーク	3.05	3.03	3.05	3.10	3.02	3.01	3.16	3.09
	地域間交流・国際交流	3.09	3.06	3.05	3.07	3.04	3.01	3.03	3.15
	広域連携	3.23	3.19	3.17	3.24	3.07	3.04	—	—

(2) 満足度の得点（全体）の推移

満足度は3.22と前回より0.08高く、これまでで最も高くなっている。施策分野別では、全体と比べると「教育・文化」「保健・医療・福祉」「環境」「防災・安全」が高く、市民の生活に直結する分野は満足度が高いと考えられる。一方、「経済・産業」が最も低い。施策で見ると、「就労・雇用」が低いいため、雇用機会の創出に向けた支援策の強化が求められる。



(3) 施策分野別満足度の得点



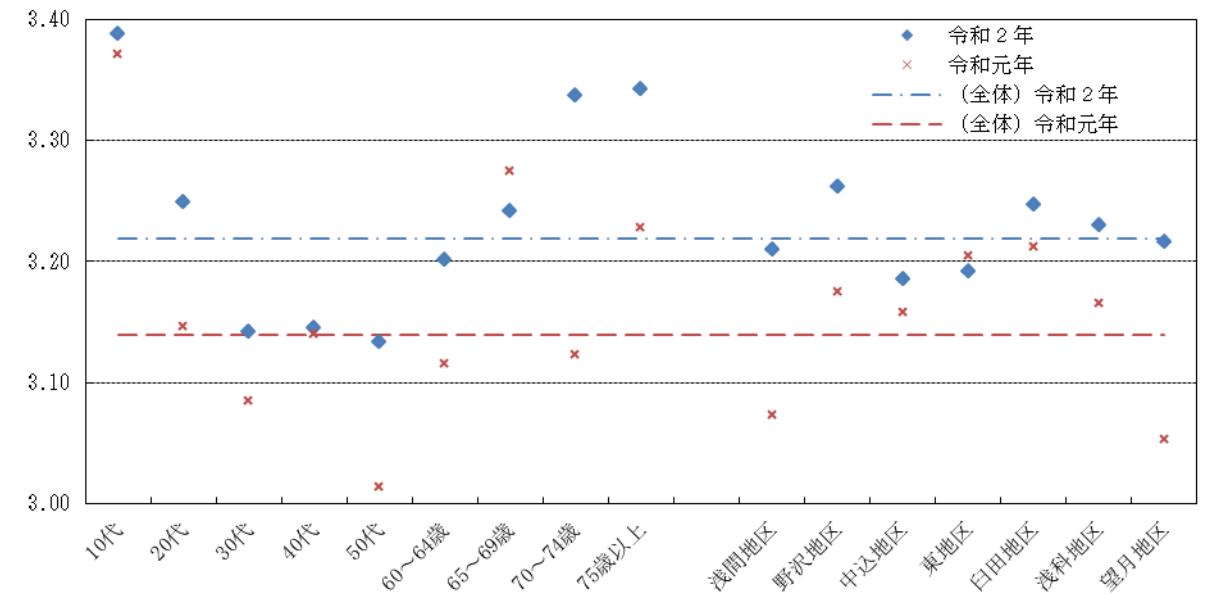
(4) 年齢別、地区別満足度の得点

年齢別では、65～69歳を除き、満足度が前回以上となっている。特に70歳以上での満足度の上昇幅が高くなっている。

地区別では、東地区を除き、満足度が前回以上となっているが、東地区のマイナスは0.01にとどまっている。望月地区、浅間地区で特に満足度の上昇幅が高くなっている。

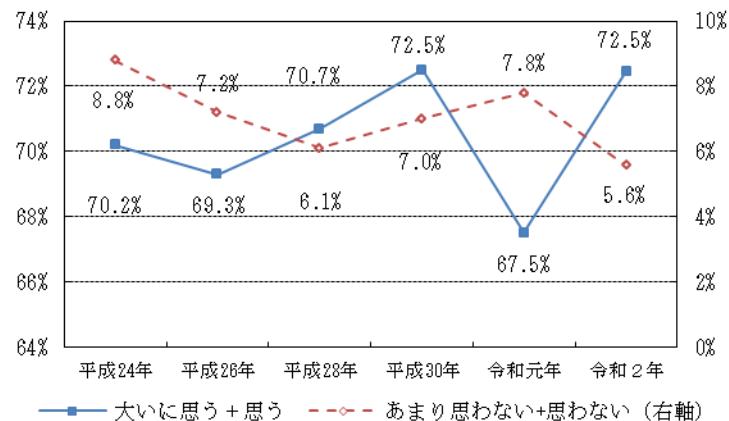
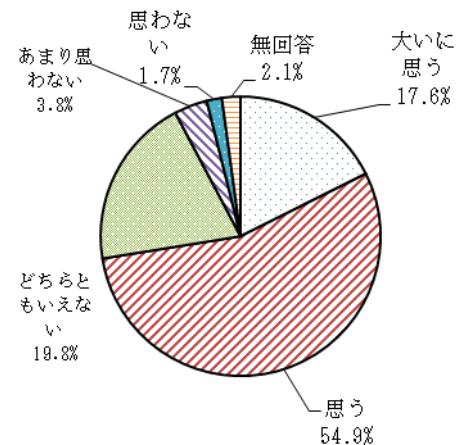
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	全体
令和2年	3.39	3.25	3.14	3.14	3.13	3.20	3.24	3.34	3.34	3.22
令和元年	3.37	3.15	3.09	3.14	3.01	3.12	3.27	3.12	3.23	3.14
差	0.02	0.10	0.06	0.00	0.12	0.09	-0.03	0.21	0.11	0.08

	浅間地区	野沢地区	中込地区	東地区	白田地区	浅科地区	望月地区	全体
令和2年	3.21	3.26	3.19	3.19	3.25	3.23	3.22	3.22
令和元年	3.07	3.18	3.16	3.20	3.21	3.17	3.05	3.14
差	0.14	0.09	0.03	-0.01	0.04	0.07	0.16	0.08



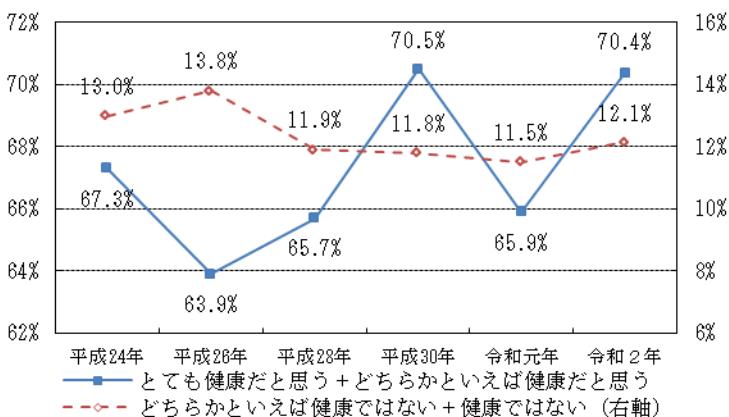
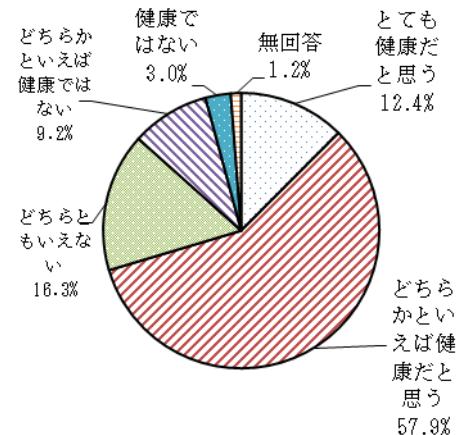
(1) 幸福感

幸せだと「大いに思う」「思う」を合わせると、72.5%となり、前回より5ポイント高くなっている。また、平成30年調査と並んでこれまでで最も高くなっている。一方、「あまり思わない」「思わない」を合わせると、5.6%となり、前回より2.2ポイント低く、これまでの調査で最も低い。



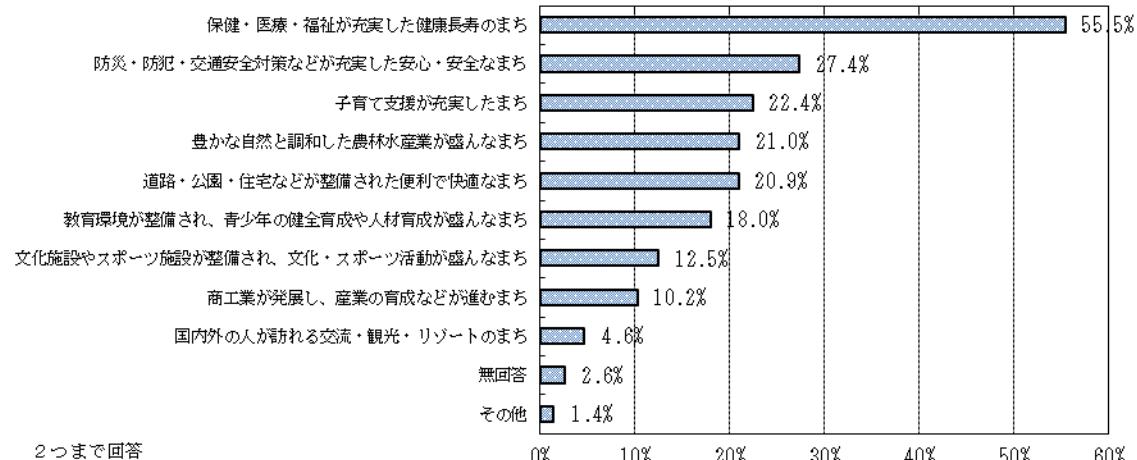
(2) 健康感

「とても健康だと思う」「どちらかといえば健康だと思う」を合わせると70.4%となり、前回より4.5ポイント高く、平成30年に次いで高い数値となっている。一方、「どちらかといえば健康ではない」「健康ではない」を合わせると12.1%となり、近年は横ばいである。



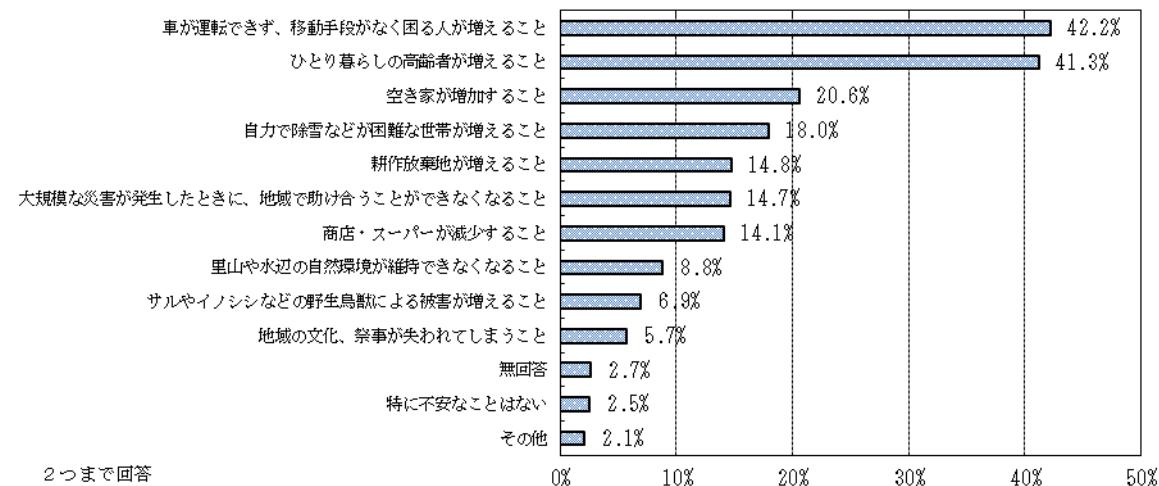
(1) 将来の佐久市になってほしい姿

「健康長寿」「安心・安全」「子育て支援」が高く、生活していく上で安心して過ごせる市の姿を望む声が多い。一方、「文化・スポーツ」、「商工業・産業」「観光」が低い。



(2) 佐久市で暮らすうえで不安を感じること

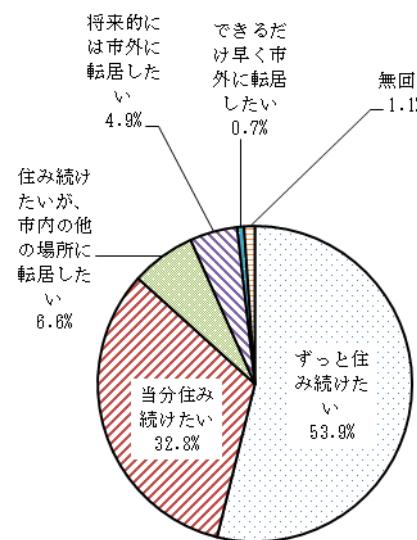
不安を感じることは「移動手段がなくなること」「ひとり暮らし高齢者の増加」「空き家の増加」「自力で除雪等が困難」等、高齢化、人口減少にともなう不安が多い。特に上位2項目は他に比べて2倍以上の回答率があり、高齢化社会への不安が大きいと考えられる。



8 居留意向

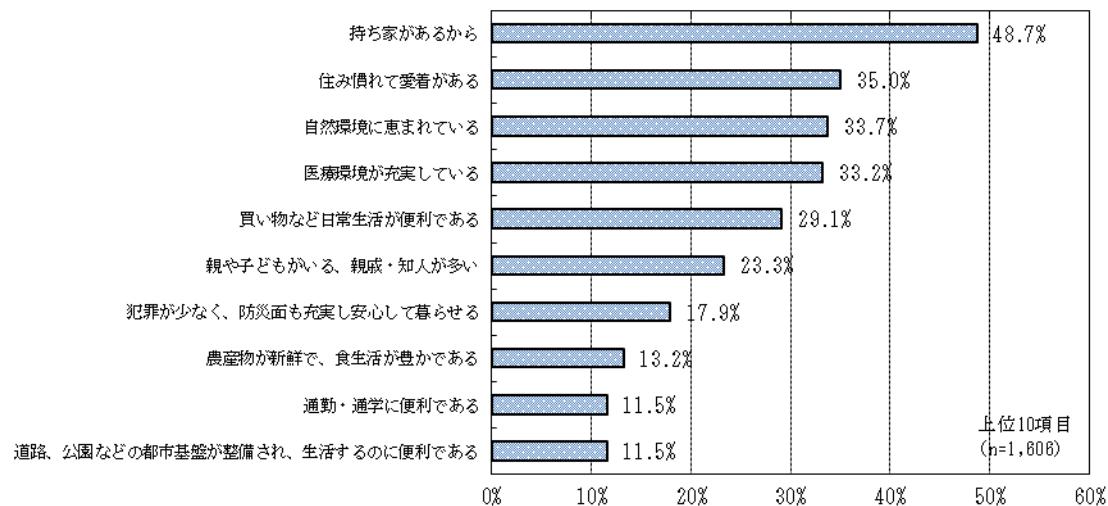
(1) 居留意向

「ずっと住みたい」「当分住みたい」「住み続けたいが、市内の他の場所に転居したい」を合わせると、93.3%となる。佐久市への定住意向は高いと考えられる。



(2) 佐久市内に住み続けたい理由

住み続けたい理由として、「地元（持ち家がある、住み慣れて愛着がある）」「自然」「医療」「買い物の利便性」が挙げられている。「地元」を除く上位3項目をみると、佐久市が住み続けたいと思われているのは、自然、医療環境（大規模な病院が複数ある）、買い物の利便性（佐久平周辺その他、大型スーパー等が点在する）が要因であると考えられる。



居留意向で以下の回答者のみ、3つまで回答
「ずっと住みたい」「当分住みたい」「住み続けたいが、市内の他の場所に転居したい」